

水の心配は、ようやくなくなりました。与次右衛門は四十六歳になっていました。

### 与次右衛門の実験

水との戦いに毎日を送っているうちでも、与次右衛門や村の人にとって、さらにたいへんなことは、年貢米ねんぐまいを納めることでした。

百姓は、自分の食べる米がなくても、年貢米だけは納めなければならなかったのです。そのために、土地を質しちに入れたり、村を逃げ出したりする農民がいました。幕内まくのうちでも、年貢を納められない家がありました。

幕府や藩では、できるだけたくさん年貢米を納めさせようと思いました。そのため、農民の生活のきまりを作り、村ごとに立札たてふだを立てて、農民の生活を